

## 第56回 定時社員総会報告

第56回定時社員総会が、定款第5条に基づき全会員の選挙によって選出された代議員によって、令和5年6月22日（木）14時30分から、東京都千代田区の都市センターホテルにおいて開催された。

定刻、西山会長は定款第17条の定めにより議長に就任し、出席代議員は73名（うち委任状出席36名、議決権行使書出席27名）で、定款第19条の定めにより全ての議案について適法に成立する旨の報告を行い、本総会の開会を宣した。

議事に先立ち、議長は定款第21条第2項の定めにより、社員総会の議事録署名人に議長のほか理事2名を議場に諮って選出した。

引き続き、監事から監査の報告があり、また、議長から会計監査人から受けた監査報告について報告があった。

続いて、議長は本総会の目的事項のうち報告事項について一括して報告する旨を告げ、報告事項1「令和4年度事業報告の内容報告の件」について担当副会長から、報告事項2「令和4年度計算書類の内容報告の件」について専務理事から、報告事項3「令和5年度事業計画の内容報告の件」および報告事項4「令和

5年度収支予算の内容報告の件」について、それぞれ担当副会長から報告があった。

引き続き、議長は本総会の目的事項のうち決議事項について一括して説明した後に決議に入る旨を告げ、第1号議案「理事14名選任の件」および第2号議案「監事1名選任の件」について専務理事から、第3号議案「名誉会員推挙の件」について担当副会長から、それぞれ説明があった。その後、議長が議場に質疑・意見を質したが特に質疑・意見はなく決議に入った。まず、第1号議案「理事14名選任の件」について、本総会終結の時をもって理事12名が任期満了により、1名が辞任によりそれぞれ退任し、1名が昨年10月に逝去していることから、欠員補充を含めて役員候補推薦・調整委員会から推薦された理事候補者14名について、議長が定款第19条第3項の定めにより候補者ごとに議場に賛否を求めたところ、候補者全員が原案どおり承認可決された。次に、第2号議案「監事1名選任の件」について、本総会終結の時をもって監事1名が任期満了により退任することから、役員候補推薦・調整委員会から推薦され、監事が同意した監事候補者1名について、議長が議場に賛否を求めたところ、原案どおり承認可決された。次に、第3号議案「名誉会員推挙の件」について、議長が候補者6名につき一括して議場に賛否を求めたところ、原案どおり承認可決された。

以上をもって、第56回定時社員総会の議事はすべて終了し、閉会した。

令和4年度事業報告、同計算書類、令和5年度事業計画、同収支予算の概要は、以下に記載のとおりである。（注：計算書類の貸借対照表内訳表、正味財産増減計算書内訳表、財産目録については、ホームページをご覧ください。）

また、社員総会終了後に臨時理事会を開催し、副会長（2名）および専務理事を選定した。令和5年度の役員は左記のとおりである。

なお、社員総会終了後、引き続き同会場において、名誉会員称号の贈呈、2023年日本コンクリート工学会賞の贈呈、同賞作品賞受賞作品のプレゼンテーション、特別講演および懇親会が行われた。

\*

### 令和4年度事業報告の概要

#### I 会務運営

##### 1. 総会

第55回定時社員総会を令和4年6月15日（水）14時30分から、東京都千代田区の日本コンクリート工学会会議室において開催し、下記の議案を付議した。出席代議員数は74名（うち委任状出席40名、議決権行使書出席32名）で、定款第19条第1項に定める定足数（総代議員数75名の過半数）を充足しており、社員総会が成立した。

- 1) 令和3年度事業報告、同計算書類、令和4年度事業計画および同収支予算を報告した。
- 2) 任期満了および辞任に伴う理事の選任については、原案どおり理事16名を承認、可決した。
- 3) 任期満了に伴う監事の選任については、原案どおり監事1名を承認、可決した。
- 4) 5名に名誉会員の称号を授与する提案を、原案どおり

令和5年度役員（理事：五十音順）

役職名	氏名	勤務先
会長	西山 峰広	京都大学
副会長	内田 裕市	岐阜大学
〃	大久保孝昭	広島大学
〃	草野 昌夫	全国生コンクリート工業組合連合会
〃	黒岩 秀介	大成建設(株)
専務理事	入矢桂史郎	(公社)日本コンクリート工学会
理事	阿波 稔	八戸工業大学
〃	五十嵐浩行	UBE三菱セメント(株)
〃	上野 敦	東京都立大学
〃	笠井 浩	鹿島建設(株)
〃	兼松 学	東京理科大学
〃	椀山 健二	芝浦工業大学
〃	岸 秀樹	旭コンクリート工業(株)
〃	楠 浩一	東京大学
〃	國枝 稔	岐阜大学
〃	神代 泰道	(株)大林組
〃	小林 孝一	岐阜大学
〃	瀧澤 明次	山宗化学(株)
〃	竹田 宣典	広島工業大学
〃	津吉 毅	東日本旅客鉄道(株)
〃	鶴田 浩章	関西大学
〃	西本 洋一	全国生コンクリート工業組合連合会
〃	橋本 親典	徳島大学
〃	濱田 秀則	九州大学
〃	深瀬 孝之	北海道科学大学
〃	前田 匡樹	東北大学
〃	宮澤 伸吾	足利大学
〃	山口 明伸	鹿児島大学
監事	鬼東 俊一	東電設計(株)
〃	野村 謙二	中日本高速道路(株)

承認、可決した。

## 2. 理事会

### (1) 定例理事会

6月定例理事会は対面式（一部オンライン出席）で行い、5、7、8、10、12、2、3月の定例理事会はWeb会議形式で開催した。主要な処理事項は、次のとおりである。

- 1) 令和3年度事業報告、同計算書類、令和4年度事業計画および同収支予算を審議・承認した。
- 2) 会員の入退会を承認した。
- 3) 2023年日本コンクリート工学会賞として、論文賞3件（受賞者21名）、技術賞6件（受賞者26名）、作品賞3件（受賞者23名）、奨励賞2件（受賞者2名）および功労賞17名を決定した。
- 4) 2022年度コンクリート技士・主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者を決定した。
- 5) 任期満了に伴う次期役員改選数ならびに候補者を決定した。
- 6) 名誉会員候補者、終身会員およびフェロー会員を決定した。
- 7) 2022年度助成金採択者を決定した。

### (2) 臨時理事会

- 1) 臨時理事会を令和4年6月15日に対面式（一部オンライン出席）で行い、西山峰広理事を会長に、大久保孝昭理事、草野昌夫理事を副会長に、信田佳延理事を専務理事に選任した。  
また、役員の会務担当を決定した。

## 3. 支部長会議

支部長会議を令和4年10月18日、令和5年2月8日の2回開催し、各支部の事業計画、事業報告、収支予算等に関して審議した。

## 4. 登録関連事項

### (1) 登記

- 1) 令和4年6月28日に、役員の変更登記（一部改選）および会計監査人の重任登記を完了した。
- 2) 令和4年11月29日に、役員の変更登記（理事1名逝去）を完了した。

### (2) 内閣府関係

- 1) 令和4年6月29日に、令和3年度事業報告および令和3年度財務諸表等の資料を内閣府に提出した。
- 2) 令和4年8月2日に、代表理事の交代ならびに理事16名および監事1名の選任に係る変更届出書を内閣府に提出した。
- 3) 令和4年12月27日に、理事1名の逝去に係る変更届出書を内閣府に提出した。
- 4) 令和5年3月30日に、令和5年度事業計画および令和5年度収支予算書を内閣府に提出した。

## 5. 委員会

委員会	委員長 (議長)	委員数	開催数*		メール 審議数
			委員会	WG等	
1. 役員候補推薦・調整委員会	杉山 央	16	2	-	1

2. 選挙管理委員会	畑中 重光	12	2	-	0
<b>企画調整部門</b>					
1. 企画調整会議	西山 峰広	9	8	-	0
2. 支部長会議	西山 峰広	19	2	-	0
3. 企画・評価委員会	西山 峰広	8	0	-	0
<b>総務・財務部門</b>					
1. 定款・規則改定委員会	草野 昌夫	5	0	-	0
2. 総務財務委員会	草野 昌夫	8	4	-	2
3. 称号授与審査委員会	草野 昌夫	6	1	-	1
4. 助成金検討委員会	濱 幸雄	11	2	-	0
5. 助成金審査委員会	梅原 秀哲	12	1	-	1
<b>学術・研究部門</b>					
1. 研究委員会	中村 光	20	3	2	4
(1) コンクリート構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会	加藤 佳孝	19	1	2	0
(2) コンクリート構造物の構造・耐久性シミュレーションにおける検証と妥当性確認に関する研究委員会	上田 尚史	14	2	0	0
(3) アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会	河野 進	16	2	1	0
(4) 性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会	塩原 等	16	1	2	0
(5) コンクリートに用いる粉体系材料の環境安全品質に関する研究委員会	大迫 政浩	30	0	3	0
(6) 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会	川端雄一郎	22	3	7	0
(7) セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会	河合 研至	19	4	12	0
(8) コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会	高谷 哲	17	3	29	0
(9) コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関するFS委員会	瀬古 繁喜	15	2	3	0
(10) コンクリートのアカデミックデータベースの整理とAIへの活用に関するFS委員会	岡崎慎一郎	11	4	0	0
2. 国際委員会	濱田 秀則	11	3	-	5
(1) ACF（アジアコンクリート連盟）対応委員会	横田 弘	13	2	-	2
(2) JCI-ACI Collaboration Committee	塩原 等	11	3	1	0
(3) RILEM Week 実行委員会	野口 貴文	27	2	0	0

3. 図書編集委員会	河合 研至	4	1	-	3
(1) コンクリート工学編集委員会	前田 匡樹	36	12	15	1
(2) 文献調査委員会	上野 敦	22	8	15	1
(3) コンクリート工学論文集編集委員会	佐藤 靖彦	20	6	-	2
(4) ACT 編集委員会	丸山 一平	20	5	-	3
4. コンクリート工学年次大会委員会	前川 宏一	11	3	-	7
(1) コンクリート工学年次大会 2022 (千葉) 実行委員会	塩原 等	73	1	16	0
(2) コンクリート工学年次大会 2023 (九州) 実行委員会	濱田 秀則	74	1	16	0
(3) コンクリート工学年次大会 2024 (松山) 実行委員会	上田 隆雄	55	0	3	0
(4) コンクリート工学年次大会 2025 (盛岡) 実行委員会 (仮称)	石川 雅美	2	0	1	0
(5) コンクリート工学年次論文査読委員会	北山 和宏	45	3	1	0
5. 学会賞選考委員会	前川 宏一	20	2	4	2
<b>技術・普及部門</b>					
1. 技術委員会	名倉 健二	13	2	-	3
(1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会	野口 貴文	24	1	0	0
(2) コンクリート圧送工法指針原案作成委員会	中田 善久	21	1	9	0
(3) コンクリート基本技術調査委員会	谷口 秀明	39	1	9	0
(4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会	溝渕 利明	26	2	21	0
2. 標準化委員会	名倉 健二	11	2	-	8
(1) 規準・指針管理委員会	内田 裕市	9	3	-	0
(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会	佐伯 竜彦	32	2	6	3
(3) ISO/TC 71 対応国内委員会	野口 貴文	89	4	26	38
(4) カーボンリサイクル評価方法の JIS 原案作成委員会	野口 貴文	31	5	8	2
(5) 再生骨材に関する JIS 改正原案作成委員会	野口 貴文	27	9	3	3
3. 広報委員会	名倉 健二	8	2	-	1
(1) 情報コミュニケーション委員会	兼松 学	15	5	-	7
4. 普及委員会	名倉 健二	9	2	-	4
(1) コンクリート技術講習委員会	山口 明伸	14	1	2	0
(2) マスコンクリートソフト普及委員会	石川 雅美	24	4	4	0

(3) コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会	鎌田 敏郎	27	1	1	0
(4) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会	山口 明伸	14	2	3	0
<b>資格付与部門</b>					
1. 資格・講習委員会	大久保孝昭	13	3	1	3
(1) コンクリート技士試験委員会	宮澤 伸吾	31	1	15	0
(2) コンクリート技士研修委員会	陣内 浩	25	2	2	0
(3) コンクリート診断士講習委員会	濱崎 仁	20	1	3	1
(4) コンクリート診断士試験委員会	今本 啓一	44	1	37	2
(5) コンクリート診断士研修委員会	小山 智幸	30	1	6	0
計		1345	157	289	110
			446		

\* 「-」は該当する会議体がないことを示す。

## II 公益目的事業

### [公1 コンクリートに関する調査研究事業]

#### 1. 調査研究事業

##### (1) 研究専門委員会

##### (A) 令和4年度に報告会を実施し活動を終了した研究専門委員会

1) コンクリート構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会

(令和2～4年度)

2) コンクリート構造物の構造・耐久性シミュレーションにおける検証と妥当性確認に関する研究委員会

(令和2～4年度)

3) アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会

(令和2～4年度)

4) 性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会

(令和2～4年度)

##### (B) 令和4年度で終了もしくは報告会開催のため令和5年度に活動を延長する研究専門委員会

5) 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会

(令和3～5年度)

6) コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関するFS委員会

(令和4年度FS)

7) コンクリートのアカデミックデータベースの整理とAIへの活用に関するFS委員会

(令和4年度FS)

##### (C) 令和5年度に継続する研究専門委員会

8) セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会

(令和4～5年度)

9) コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会

(令和4～5年度)

##### (2) 技術専門委員会

1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会

(令和3～4年度)



- 2) コンクリート圧送工法指針原案作成委員会  
(令和3～4年度)
- 3) コンクリート基本技術調査委員会 (令和4～5年度)
- 4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会  
(令和4～5年度)
- (3) 支部研究委員会
  - 1) (北海道支部) 北海道コンクリート秘話調査研究委員会 III  
(令和3～4年度)
  - 2) (北海道支部) 寒冷環境下におけるコンクリートの品質・耐凍害性確保に関する研究委員会 (令和3～5年度)
  - 3) (北海道支部) 時間軸評価に基づく北海道地域の構造設計に関する研究委員会 (令和4～5年度)
  - 4) (東北支部) 東北地方のコンクリート構造物の品質・耐久性確保に関する調査研究委員会 (第二期)  
(令和元～4年度)
  - 5) (東北支部) フライアッシュ及びもみ殻灰の有効利用に関する研究委員会：コロナ禍の影響により中止(再開を検討中)  
(令和元～4年度)
  - 6) (東北支部) 表層品質評価委員会 (令和元～4年度)
  - 7) (東北支部) コンクリートの施工の良否が材料劣化に及ぼす影響に関する調査研究委員会 (令和元～4年度)
  - 8) (中部支部) 中部地域のコンクリート工学の将来像および研究シーズの創出に関する調査研究委員会  
(令和3～4年度)
  - 9) (中部支部) 小規模橋梁を対象としたコンクリート用DIY補修のあり方調査研究委員会 (令和3～5年度)
  - 10) (近畿支部) 百石斎(田邊朔郎書斎)調査委員会  
(令和3～5年度)
  - 11) (近畿支部) コンクリート試験の省力化に関わる検討委員会  
(令和元～4年度)
  - 12) (中国支部) RC構造物の微生物調査委員会  
(令和4～5年度)
  - 13) (四国支部) 四国の生コン技術力活性化委員会【第5期】  
(令和2～4年度)
  - 14) (四国支部) 四国における新設コンクリート構造物の品質確保の実践に関する研究委員会(第2期目)  
(令和3～4年度)
  - 15) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設委員会)
  - 16) (九州支部) 非破壊試験による表層部コンクリートの品質評価に関する研究専門委員会 (令和2～4年度)
  - 17) (九州支部) 管理者直営による簡易補修方法の提案と評価に関する研究成果報告委員会 (令和4年度)
  - 18) (九州支部) 九州に堆積する火山噴出物の活用方法に関する研究専門委員会 (令和4～5年度)
  - 19) (九州支部) 技術者勉強会(若手研究者の会)実行委員会 (令和4年度)

○研究専門委員会の活動報告

- (1-A-1) JCI-TC 201 A コンクリート構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会 (令和2～4年度延長)

本研究委員会は、構造物の維持管理において必要となる劣化予測を検討対象として、学術研究の成果の活用についてまとめることを目的とし、令和2年度から3年度まで活動した。令和4年度は、これまでに検討してきた内容を報告書としてとりまとめ、成果報告会をオンライン開催し、委員会報告書を発行した。

- (1-A-2) JCI-TC 202 A コンクリート構造物の構造・耐久性シミュレーションにおける検証と妥当性確認に関する研究委員会 (令和2～4年度延長)

本研究委員会は、コンクリート工学分野におけるシミュレーションの検証と妥当性確認(Verification & Validation, V&V)について、その方法論や課題を明確にするとともに、V&Vを行う際の具体的な手順を提示することを目的として、令和2年度から3年度まで活動した。令和4年度は、これまでの活動成果を社会に広く還元するために、特別講演会、成果報告会および一般公演からなるシンポジウムを開催した。また併せて、委員会報告書とコンクリートを対象としたシミュレーションのV&Vに関する手引きを作成した。

- (1-A-3) JCI-TC 203 A アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会 (令和2～4年度延長)

本研究委員会は、アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動(弾性限界、曲げ降伏、靱性等)に関する現在の知見を調査し、異なる部材の骨格曲線における特性点算定法の精度を確認の上、必要に応じさらに精度向上を図る提案を行い、本構造を普及することを目的として、令和2年度は規基準・研究論文の文献調査を行い、令和3年度は梁・柱・壁・スラブなどアンボンド部材の骨格曲線を予測できる設計式・数学モデルの情報を収集した。令和4年度は、成果報告会をオンライン開催し、委員会報告書を発行した。

- (1-A-4) JCI-TC 204 A 性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会 (令和2～4年度延長)

本研究委員会は、建築・土木構造における、コンクリート構造物の性能評価型耐震設計の実務に用いられている非線形地震応答解析の適用法に関するガイドライン、設計慣行、適用範囲、モデル化、設計クライテリア、信頼性等の観点から、現状の技術について整理しまとめた報告書を出版し、それをテキストとして成果報告会を開催した。

- (1-B-1) JCI-TC 211 A 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会 (令和3～5年度延長)

本研究委員会は、コンクリートの内部膨張反応(ISR)について、これらに共通する基礎理論を改めて見直し、ISRに関する試験法のあるべき方向性や材料・構造のモデルをセットで提案することで、より実行性のあるISRリスク評価法を世界に先行して提示することを最終目標とする。令和4年度は、外部講師からコンクリートのひび割れ画像解析技術について話題提供が行われたほか、各WGにおいて既往の研究の調査に基づくレビュー論文の執筆・投稿を行った。また、これらの成果を基に、コンクリート構造物におけるISRに関する膨張評価・予測に基づくリスク評価法について議論した。

- (1-B-2) JCI-TC 223 F コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関するFS委員会 (令和4年度FS)

本FS委員会では、コンクリートへの流動性付与やブリーディング抑制などに有用性が期待される石灰石微粉末を、コンクリート用材料として有効活用していくことを最終目標とし、その実行可能性を見極めるために、石灰石微粉末の流通や利用の実状についてのアンケート調査、および既往の研究・施工実績等における石灰石微粉末の活用方法や効果に関する文献調査を行った。その結果、既報の資料や業界団体の統計資料のほかに詳細な実績内容に関する情報を調査する必要があること、海外のセ

メント規格では石灰石微粉末を混合使用する方向性があること、コンクリート製品では打ち肌改善効果などの利点もあり石灰石微粉末の製造過程や流通・保管方法等について詳細な調査と検討が必要であることなどが明らかとなった。

(1-B-3) JCI-TC 224 F コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する FS 委員会  
(令和 4 年度 FS)

本 FS 委員会では、コンクリート構造物に関する実務での設計や維持管理体系の高度化に対し、今後活用が期待される AI・機械学習技術の利用を促進させることを最終目標とし、その実行可能性を見極めるために、コンクリートの材料および構造両面でのビッグデータの収集方法と、AI・機械学習への活用法について検討した。具体的には、本学会ならびに各種学会で発表された実験および実構造物データを項目ごとに抽出し、これらの整理方法や公開方法を議論するとともに、コンクリートの乾燥収縮量に関する予測の回帰式の構築を例題としてモデルの具体的な構築手順を提示し、最終目標が実行可能であることを確認した。

(1-C-1) JCI-TC 221 A セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会 (令和 4～5 年度)

本研究委員会は、セメント・コンクリートの環境影響を多角的な視点から総合的かつ統一的に評価する手法を構築することを目的としている。令和 4 年度は、セメント・コンクリートに関連する既存の環境影響評価手法を取りまとめ、簡易的な評価、詳細な評価を実施する際に現行において推奨される手法を、影響領域、機能単位、システム境界、廃棄物・副産物の取扱い、影響評価手法などの項目別に提示した。また、セメント・コンクリートに関連するインベントリデータの作成方法を調査・整理し、エネルギー・輸送、セメント製造、骨材製造、水・混和剤製造、コンクリート製造、施工、解体、廃棄・リサイクルのそれぞれについて、最新のインベントリデータを構築した。

(1-C-2) JCI-TC 222 A コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会 (令和 4～5 年度)

本研究委員会は、コンクリートに作用する水が腐食に与える影響について整理し、鉄筋腐食を統一的に取扱うためのシナリオを作成することを目的としている。令和 4 年度は、文献調査 WG (WG 1) と構造物調査 WG (WG 2) の 2 つの WG を設置し、それぞれ活動を行った。WG 1 では、コンクリート中の鉄筋腐食を腐食の開始過程と進行過程の 2 つに分け、特に腐食の進行過程において重大な影響を与える水の影響を酸素の存在とともに整理した。さらに腐食原理調査 SWG (SWG 1-1)、コンクリートへの腐食原理適用 SWG (SWG 1-2)、コンクリート中の水の挙動調査 SWG (SWG 1-3) の 3 つの SWG を設け、詳細な調査・検討を行った。WG 2 では、現場における湿潤と乾燥の影響要因を整理するため、実際に乾湿繰返しにより腐食が進行している構造物の調査を 2 回実施し、表面含水率、電気抵抗率、内部含水率、透気係数、透水係数、内部温湿度、中性化深さ、塩化物イオン量、自然電位、分極抵抗、鋼材表面の pH など、多岐にわたる項目に関する計測を行った。

○技術専門委員会の活動報告

(2-1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会

本委員会では、共通試験 WG およびモニタリング WG を設置して活動を行った。共通試験 WG では、端島 (通称、軍艦島) に暴露した様々な補修を施した鉄筋コンクリート試験体を対象に、「端島における補修材の効果検証に関する共通試験実施についての基本覚書」に則って、2022 年の 4 月末、および 10 月末～

11 月初めに上陸して、劣化の進行状況や物理的・化学的な変化を観察・測定し、その結果を基に補修効果の分析を行った。モニタリング WG も同様に 2022 年の 4 月末、および 10 月末～11 月初めに上陸し、30 号棟に設置したモニタリング設備の点検、ドローンによる点群データの収集、3 号棟・65 号棟・69 号棟の劣化状況の調査を実施した。

(2-2) コンクリート圧送工法指針原案作成委員会

本委員会では「コンクリート圧送工法ガイドライン 2009 および解説」の改正版となる「コンクリート圧送工法指針」を作成するための活動を行った。令和 4 年度は規準・指針管理委員会からの査読意見を反映した修正原案を同委員会に提出し、その後、理事会へ最終案を提出して指針刊行の承認を得た。令和 5 年 3 月に「コンクリート圧送工法指針 2023」を刊行し、発刊講習会をハイブリッド形式で開催した。

(2-3) コンクリート基本技術調査委員会

本委員会では、コンクリート構造物における製造・施工に関する基本技術を調査し、広く社会に役立つ形で情報を発信することを目的として、「品質管理・検査」、「準備工」および「運搬」の 3 つの WG で調査活動を行った。品質管理・検査 WG では、コンクリート構造物の品質を確保する上で必要となる品質管理と検査のあり方について報告書作成を進め、準備工 WG では、建築工事における鉄筋施工の実状に関するアンケート結果の集計・分析を行い、「運搬 WG」では、運搬に関する Q&A リストを作成した。

(2-4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会

本委員会は、「マスコンクリートのひび割れ制御指針」2024 年改訂を目指し、その原案の作成を行うことを目的としている。主な改訂項目として①ひび割れ発生の照査を正規確率で行うものとする、②DEF に関してこれまでの実績を踏まえて省略も含めた照査の大幅な緩和を行う、③簡易評価式の全面的な見直しを行う、④設計用値に関して強度発現式およびクリープ評価式の見直し等を行う、⑤ひび割れ幅の算定手法に smeared crack model によるひび割れ幅解析手法を加える、⑥膨張材の項に総エネルギー則による方法を加える、⑦設計用値取得のための試験法に関する新たな章の立ち上げを行う、の 7 つを設定し、それぞれについて WG に分かれて改定内容の検討および担当する章の改定作業を行った。

## 2. 標準化事業

### (1) 標準化委員会

各所管委員会の活動内容、委員の追加・交代等について審議・承認した。また、「特定テーマ JIS 原案作成専門委員会規程」および「特定テーマ JIS 原案作成専門委員会の設置等に関する内規」の改正案について審議・承認した。

### (2) 規準・指針管理委員会

「日本コンクリート工学会規準・指針の制定/改正に関する規程」に基づき、前年度に審査申請された「コンクリート圧送工法指針 (原案)」について引き続き審査を実施し、査読結果に対応した修正原案が妥当と認められたため、これを承認した。なお、令和 4 年度は規準原案の審査申請は無かった。

制定から 5 年以上経過した以下の JCI 規準について、改廃の要否を検討するためのアンケート・ヒアリングを、規準原案の作成者、コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会の全委員等に実施し、その結果を基に審議した結果、いずれもこのまま JCI 規準として維持することとした。

- ①JCI-S-010-2017 コンクリートのアルカリシリカ反応性試験方法
- ②JCI-S-011-2017 コンクリート構造物のコア試料による膨張率の測定方法
- ③JCI-S-012-2017 接着系あと施工アンカー用樹脂の耐アルカリ試験方法
- ④JCI-S-013-2017 付着力試験による接着系あと施工アンカー部の耐アルカリ試験方法

〔日本コンクリート工学会規準・指針の制定／改正に関する規程〕の改正案を審議・承認した。

(3) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

1) 令和3年度および4年度に主務大臣に改正申出をした以下のJISは、日本産業標準調査会の審議を経て改正公示された。

- ①JIS A 1107 コンクリートからのコアの採取方法及び圧縮強度試験方法
- ②JIS A 1121 ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験方法
- ③JIS A 1123 コンクリートのブリーディング試験方法
- ④JIS A 1136 遠心力締固めコンクリートの圧縮強度試験方法
- ⑤JIS A 1153 コンクリートの促進中性化試験方法

2) 令和4年度に主務大臣に改正申出をした以下のJISは、日本産業標準調査会の審議にて否決され、改正を見送った。

- ①JIS A 1156 フレッシュコンクリートの温度測定方法

3) 以下のJISについて改正の要否を検討し、確認(改正不要)を判断した。

- ①JIS A 1109 細骨材の密度及び吸水率試験方法
- ②JIS A 1110 粗骨材の密度及び吸水率試験方法
- ③JIS A 1115 フレッシュコンクリートの試料採取方法
- ④JIS A 1116 フレッシュコンクリートの単位容積質量試験方法及び空気量の質量による試験方法(質量方法)
- ⑤JIS A 1128 フレッシュコンクリートの空気量の圧力による試験方法(空気室圧力方法)
- ⑥JIS A 1132 コンクリートの強度試験用供試体の作り方
- ⑦JIS A 1144 フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法
- ⑧JIS A 1147 コンクリートの凝結時間試験方法
- ⑨JIS A 1154 硬化コンクリート中に含まれる塩化物イオンの試験方法

(4) ISO/TC 71 対応国内委員会

1) ISO/TC 71 総会、各SC、および各SC傘下のWGの会合(いずれもVirtual開催)に委員を派遣し、日本が主導する規格開発の説明を行い、規格作成に日本の意見を反映させた。

2) ISO/TC 71の以下の会議体において、議長、委員会マネージャー、WGのコンビーナ、WGのセクレタリーおよびエキスパートの役割を遂行した。

- ①TC 71 (コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレレストレストコンクリート)：議長および委員会マネージャー
- ②SC 1 (コンクリートの試験方法)：エキスパート (WG)
- ③SC 3 (コンクリートの製造及び施工)：コンビーナおよびエキスパート (WG)

- ④SC 4 (構造コンクリートの要求性能)：エキスパート (WG)

- ⑤SC 5 (コンクリート構造物の簡易設計標準)：エキスパート (WG)

- ⑥SC 6 (コンクリートの新しい補強材)：議長、委員会マネージャー、コンビーナおよびエキスパート (WG)

- ⑦SC 7 (コンクリート構造物の維持および補修)：議長、コンビーナ、WGセクレタリーおよびエキスパート (WG)

- ⑧SC 8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント)：議長、委員会マネージャー、コンビーナ、WGセクレタリーおよびエキスパート (WG)

- ⑨TC 71/WG 1 (コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント)：コンビーナおよびエキスパート

- ⑩TC 71/WG 2 (コンクリート充填鋼管複合構造の設計)：エキスパート

- ⑪CAG (Chair Advisory Group)：コンビーナおよびエキスパート

- ⑫TC 71/AHG 1 (コンクリート材料の用語)：コンビーナおよびエキスパート

3) 国内関係機関と連携し、ISO/TC 71から提案される各種規格案等の投票に対応した。

4) 日本から提案する次のISO規格案について、情報収集・意見収集を図るとともに、各国との調整を行い、規格化に向けた活動を行った。

(新規制定対応中)

- ①コンクリート構造物の地震後継続利用のための性能評価に関する国際標準 (ISO 19338の改正時にAnnexとして追加する方向で対応中)

- ②繊維補強セメント系複合材に用いる合成短繊維の規格(提案段階)

- ③コンクリート構造物のための繊維強化ポリマー (FRP) 補強-第3部：FRPシートの分類 (CD段階)

- ④セメント系材料を用いた補修補強工法に関する規格 (FDIS段階)

- ⑤コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント (構成材料及びコンクリートの製造 (DIS段階)、コンクリート構造物の施工 (提案段階)、ライフサイクルを含む最終段階 (予備段階))

- ⑥コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化された二酸化炭素の評価 (予備段階)

- ⑦コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント-第2部：計画と設計 (CD段階)

- ⑧コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント-第3部：施工 (予備段階)

(改正対応中)

- ⑨コンクリートの発注・製造・品質管理に関するISO 22965-1 (予備段階) 及びISO 22965-2 (WD段階)

- ⑩繊維強化ポリマー (FRP) によるコンクリートの補強-試験方法に関するISO 10406-1 及びISO 10406-2 (WD段階)

- ⑪FRPシートの規格に関するISO 18319-1 (WD段階)

- ⑫繊維補強セメント材料の試験方法(切欠き梁の3点曲げ試験)に関するISO 19044 (CD段階)

- ⑬コンクリート構造物の維持補修に関するISO 16311-1 (提案段階)、ISO 16311-2、ISO 16311-3 及びISO



16311-4 (16311-2～4はDIS段階)

⑭コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメントに関するISO 13315-1 (DIS段階), ISO 13315-2 (CD段階)

⑮コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント-第4部:計画と設計 (ISO 13315-4) (確認)

5) ISO/TC 156/SC 1 (Corrosion control engineering life cycle) のリエゾンマネジャーを務めた。

(5) 再生骨材に関するJIS改正原案作成委員会

再生骨材および再生骨材コンクリートに関し、国内外における利用実態および各国規格・ISO規格の状況・方向性を見極めつつ、用途拡大を図り普及を促進させ、以てカーボンニュートラル社会・資源循環型社会の構築に資することを目的として、以下のJISについて、(一財)日本規格協会との原案共同作成事業(公募事業)として、用語・区分・使用材料・試験方法の追加・修正、品質範囲の拡充などを含むJIS改正原案を作成した。

①JIS A 5021 コンクリート用再生骨材 H

②JIS A 5022 再生骨材コンクリート M

③JIS A 5023 再生骨材コンクリート L

### 3. 国際協力および交流

1) 9月7日～8日に京都で開催されたRILEM Bureau会議、3月6日にラバト(モロッコ)で開催されたRILEM DAC会議に、国際委員会の野口貴文委員が出席した。

8月30日にオンライン、9月4日～5日に京都、3月6日にラバト(モロッコ)で開催されたRILEM TAC会議に、国際委員会の今本啓一委員が出席した。

2) 6月12日～16日にオスロで開催されたfib congress 2022にて日本から応募した2件(土木1件、建築1件)が作品賞を受賞した。また、同congressには国際委員会の藤山知加子委員が出席し、National Reportの概要紹介を行った。

3) ACI主催の「24 Hours of Concrete Knowledge」に参加し、7月13日の12時～13時(日本時間)の間、JCIがホストを務め、2件の話題提供およびJCIの昨今の活動内容を紹介した。10月23日～27日まで開催されたACI Concrete Convention(テキサス州・ダラス)に国際委員会の塩原等委員および秋山充良委員が参加した。

4) JCI-ACI Collaboration Committeeにおいて、2023年4月2日～6日に開催されるACI Concrete Convention(カリフォルニア州・サンフランシスコ)における第6回JCI-ACIジョイントセミナーの発表者、司会者、発表時間などのプログラムについて検討し、ACIと協議の上、決定した。

5) 7月13日～15日にオンライン開催されたコンクリート工学年次大会2022(千葉)において、2022年3月28日にハイブリッド形式で実施された第5回JCI-ACIジョイントセミナーの録画を配信した。

6) 10月11日にオンライン開催された第21回ACF-EC会議にACF対応委員会の横田弘委員長と野口貴文幹事(ACF副会長)が出席した。3月11日～13日に第4回ACFシンポジウムがハイブリッド形式で開催され、ACF対応委員会の上田多門顧問らが参加した。

7) 京都にRILEM Week 2022を招致し、9月3日～9日に、PhDコース、定例のDAC・TAC・EAC・Bureau・General council会議、各TC会議、および構造物の再生・保存に関する国際会議(ICRCS 2022)を開催した。

8) fib Achievement Award for Young Engineers 2023の募集を周知し、国際委員会の審査の結果日本から4名の推薦を行った。

9) ISO/TC 71の次の会議にISO/TC 71対応国内委員会からそれぞれの担当者がオンラインにて出席した。第27回全体会議(12月13日)、第3回CAG会議(12月7日)、第29回SC1会議(12月12日)、第31回SC3会議(11月14日)、SC3/AHG1会議(第2回9月19日、第3回11月7日、第4回1月16日)、SC4/WG1会議(第5回6月28日、第6回7月26日、第7回8月23日、第8回8月30日、第9回11月1日、第10回12月20日、第11回2月28日)、第21回SC5会議(9月6日)、第16回SC6会議(12月5日)、第16回SC7会議(11月21日)、第2回SC7/WG1会議(10月20日)、第13回SC8会議(11月17日)、第4回WG1会議(11月10日)、第1回WG2会議(11月28日)。

10) fib ナショナルレポート作成TGを設置し、プレストレストコンクリート工学会と共同で「National Report of Japan on Structural Concrete 2022」を制作、ホームページに公開した。

### 4. 受託研究事業

(1) 国際標準開発関連

1) 三菱総合研究所(MRI)再委託(経済産業省委託)事業として、「令和4年度産業標準化推進事業委託費(戦略的国際標準化加速事業:政府戦略分野に係る国際標準開発活動)(テーマ名:Sustainable Development Goalsの達成を実現するレジリエントなコンクリート構造物の整備に関する国際標準化)」(2年目)を実施した。5件のテーマについて、原案作成と提案のための対応を行い、成果報告書を提出して国際標準開発の事業を進めた。

2) 野村総合研究所(NRI)再委託(経済産業省委託)事業として、「令和4年度省エネルギー等に関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野))(資源循環とCO<sub>2</sub>削減を目的としたコンクリート及びコンクリート構造物のライフサイクルの各段階における省エネルギー推進に関する国際標準化)」(3年目)を実施した。3件のテーマについて、原案作成と提案のための対応を行い、成果報告書を提出して国際標準開発の事業を進めた。

(2) コンクリートに用いる粉体系材料の環境安全品質関連受託研究委員会(JCI-TC 206 C)において、セメント協会、鉄鋼スラグ協会、日本フライアッシュ協会、日本シリカフェーム技術研究会および膨張材協会からの委託である「コンクリートに用いる粉体系材料の環境安全品質に関する研究」を受託期間の令和4年9月末まで実施し、完成した報告書を委託元5団体へ提出した。また、オンライン形式による報告会を開催した。

(3) カーボンリサイクル評価方法のJIS開発関連

「カーボンリサイクル評価方法のJIS原案作成委員会」において、日本規格協会(JSA)再委託(経済産業省委託)事業として、「令和4年度省エネルギー等に関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野(新規対応分野)))(テーマ名:コンクリート及びその構成材料のCO<sub>2</sub>吸収・固定量の評価方法に関するJIS開発)」を実施した。二酸化炭素の吸収・固定量の計測方法の文献調査・実験および実地計測を外部の機関と共同で行い、これらの活動で得られた結果

に基づいて、湿式分析法と熱分析法の JIS 素案を作成した。

## 5. 出版事業

次の論文集、研究報告書、指針、テキスト等を刊行した。

- 1) 「コンクリート構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会」報告書 (CD)
- 2) 「コンクリート工学におけるシミュレーションの検証と妥当性確認および不確かさ評価に関するシンポジウム」委員会報告書・論文集 (CD)
- 3) 「アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会」報告書
- 4) 「性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会」報告書
- 5) 「コンクリートに用いる粉体系材料の環境安全品質に関する研究委員会」報告書
- 6) コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針 2022
- 7) コンクリートの圧送工法指針 2023
- 8) コンクリート技術の要点 '22
- 9) コンクリート工学年次論文集第 44 巻 2022 年 (DVD 版)
- 10) Technical Committee Reports 2022 (研究専門委員会報告書英文概要, Web 公開)
- 11) コンクリート技士・主任技士研修テキスト '22
- 12) コンクリート診断士研修資料 '22 (ダウンロード版)
- 13) コンクリート診断技術 '23

## 6. 会誌発行事業

### (1) 会誌「コンクリート工学」

毎月 1 回刊行して会員に頒布した。特集テーマは次のとおりである。

- 1) 建設 DX で拓かれる次世代のコンクリート工事—コロナ禍以降のニューノーマルに向けて— 2022 年 5 月号
- 2) コンクリート構造分野の実験・計測技術 2022 年 9 月号
- 3) コンクリート構造物における【接合・くっつける】技術 2023 年 1 月号

### (2) コンクリート工学論文集

オンラインジャーナルとして 33 巻 (5 月・7 月・11 月) および 34 巻 (1 月・3 月) を Web (J-STAGE) にて公開した。

### (3) 英文ジャーナル 'Journal of Advanced Concrete Technology'

オンラインジャーナルとして Vol. 20 (Issue 4 ~ Issue 12) および Vol. 21 (Issue 1 ~ Issue 3) を Web (J-STAGE) にて公開した。

## 7. 広報事業

### (1) 広報活動

- 1) 会誌「コンクリート工学」, 本学会パンフレット, ホームページ等により活動状況等の広報活動を行った。
- 2) 情報コミュニケーション委員会  
定期的なホームページ更新による情報発信および広報活動を目的として, 本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行った。主に, 以下の項目に関する活動を行った。

- ①月刊コンクリート技術 (一般向けコンテンツ) の公開: 6 月号, 7 月号 (3 編), 10 月号, 11 月号, 12 月号, 2 月号の公開 (合計 8 編)

②メールニュースの作成および配信 (月 1 回配信。その他イベントリマインダ等を随時配信)

③HP 改訂案作成のためのコンサルティング (2019~2020 年度実施) の結果をもとに, メニュー構成, デザイン等の検討・対応を委員会で実施し, 令和 4 年 9 月に新 HP を公開した。

④HP リニューアルの追加内容 (会員専用ページにある研究委員会報告書検索システムの改修等) の検討

### (2) 普及活動

#### 1) マスコンクリートソフト普及委員会

実施した主な活動は, 次のとおりである。

① 3 次元初期応力解析ソフト JCMAC 3, 3 次元保有耐力荷力解析ソフト JCMAC 3-U および 2 次元温度応力解析 JCMAC 1・2 のユーザーサポートを行った。

② JCMAC 3 および JCMAC 3-U のバージョンアップとして, 「マスコンクリートのひび割れ制御指針」の次回改定に向けて, 応力状態に依存したクリープ係数の設定, および最高温度履歴を考慮した圧縮強度式を組み込んだ。

③ JCMAC 3-PS (JCMAC 3-U にプレストレスの導入を考慮できる機能を追加したバージョン) の開発を行った。

④ JCMAC 3-U (日本語版) のコード整備を実施した。

#### 2) コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針普及委員会

本委員会では, 令和 4 年 6 月に発刊された「コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針 2022」の講習会の実施等により同指針の普及を図ることを主な目的とし, 以下の活動を行った。

①改訂要旨オンライン (オンデマンド形式) 報告会の実施

②国内講習会 (東京, 大阪) の実施

③2022 年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応

④2022 年版指針マンション編に対する質問や修正指摘等への対応

⑤2022 年版指針ひび割れ判定ソフト Web 版に対する質問や修正指摘等への対応

#### 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会

本委員会は, 現行の LECCA シリーズの普及活動に加え, LECCA シリーズをベースとした初学者向けの教育プログラムを作成することを目的としている。令和 4 年度は, LECCA を活用した演習課題案を作成し, 大学生および社会人を対象に試行し, 終了後にアンケート調査を実施した。

## 8. 特別委員会他

### (1) 関連学協会との共同活動

- 1) 日本学術会議「防災減災・災害復興に関する防災学術連携体」に委員 2 名および「理学・工学系学協会連絡協議会」, 日本原子力学会「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」に委員各 1 名が参画し, 情報収集を行った。
- 2) (一社) 日本建設機械施工協会主催の「コンクリート機械 (ISO/TC 195/SC 1) 委員会」に委員 2 名が参画し, 情報収集を行った。



- 3) 1月6日に建設系7学会会長会議に参加し、「各学会の活動概要」および「ニューノーマルとしてのオンライン会議の活用と課題」について意見・情報交換を行った。

## 9. 助成金事業

研究助成および国際会議参加助成を公募し、5件の研究助成を採択したが、国際会議参加助成は応募がなく、採択は見送りとした。

## [公2 講演会等事業]

### 1. 年次大会事業

#### (1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2022 (千葉) を7月13日~15日の3日間、コロナ禍の状況を考慮し、オンラインにて開催した。塩原等実行委員長の開会の辞、西山峰広会長の挨拶、前川宏一副会長によるJCI活動報告に続いて次の行事を行った。

- 1) 第44回コンクリート工学講演会  
講演題数 451編  
参加者 5344名(3日間延べ)
- 2) 特別講演会  
国際コンクリート連合 (*fib*) 春日昭夫氏  
演題: カーボンニュートラルに対するコンクリートの課題と *fib* の戦略  
聴講者数 289名
- 3) 生コンセミナー  
テーマ: 挑戦する生コン業界  
参加者 273名
- 4) コンクリート構造物診断セミナー  
テーマ: ハタチの診断士~二十年を迎えた診断士のこれから~  
参加者 152名
- 5) WEB見学会  
建材試験センター 中央試験所
- 6) 年次論文奨励賞 51名の表彰(副賞: コンクリートボールペン)

### 2. 講演会・講習会・シンポジウム等

#### (1) コンクリート技術講習会

2022年度コンクリート技術講習会を、10月15日から11月30日まで、前年度と同様にオンライン(オンデマンド)形式にて開催した。参加者は541名(前年度は568名)であった。

#### (2) シンポジウム・セミナー・報告会・講習会

- 1) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 2022」改訂要旨報告会を、6月10日~30日にオンライン(オンデマンド)形式にて開催した。参加者は377名であった。
- 2) 「コンクリート工学におけるシミュレーションの検証と妥当性確認および不確かさ評価に関するシンポジウム」を、8月26日にオンライン(ライブ)形式にて開催した。参加者は99名であった。
- 3) 「性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会」報告会を、9月12日にオンライン(ライブ)形式にて開催した。参加者は109名であった。
- 4) 「コンクリート構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会」報告会を、9月22日にオンライン(ライブ)形式にて開催した。参加者

は83名であった。

- 5) 「コンクリートに用いる粉体系材料の環境安全品質に関する研究委員会」報告会を、9月29日にオンライン(ライブ)形式にて開催した。参加者は108名であった。
- 6) 「アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会」報告会を、9月30日にオンライン(ライブ)形式にて開催した。参加者は73名であった。
- 7) 「コンクリート圧送工法指針 2023」発刊講習会を、3月15日に東京都千代田区の日本大学理工学部駿河台キャンパスで開催し、同時にオンライン(ライブ)形式による配信を実施した。参加者は対面62名、オンライン137名の計199名であった。
- 8) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 2022」講習会を、3月20日に東京都中央区のビジョンセンター東京京橋、3月27日に大阪府大阪市のグランキューブ大阪にて開催した。参加者は東京214名、大阪206名の計420名であった。

#### (3) 支部 講演会、講習会、報告会

支部主催の講演会、講習会、報告会を次のとおり開催した。

- 1) (北海道支部) 支部活動報告会特別講演会  
日時: 5月20日(金)  
場所: オンライン(ライブ)形式  
演題: 「寒中コンクリート工事に関連する気候特性と施工合理化」  
講師: 深瀬孝之氏(北海道科学大学)
- 2) (北海道支部) 「北海道コンクリート秘話調査研究委員会II」報告会  
日時: 5月20日(金)  
場所: オンライン(ライブ)形式
- 3) (北海道支部) コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座  
日時: 10月5日(水)  
場所: オンライン(ライブ)形式  
演題: ①「劣化構造物(既設構造物の構造解析)」  
講師: 高橋良輔氏(北海道学園大学)  
演題: ②「臨床建築学~たてものの病気と診断~」  
講師: 西川忠氏(札幌市立大学)
- 4) (北海道支部) コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会  
日時: 10月12日(水)  
場所: 新稲穂トンネル工事作業所
- 5) (北海道支部) 「若手会の勉強会および見学会」  
日時: 11月8日(火)  
場所: 曾澤高圧コンクリート鴨川工場
- 6) (東北支部) 「東北地方のコンクリート構造物の品質・耐久性確保に関する調査研究委員会」報告会  
日時: 2022年8月29日(月)~2023年3月31日(金)  
場所: オンライン(オンデマンド)形式
- 7) (東北支部) 第17回「コンクリート診断技術研鑽のための勉強会」  
日時: 12月5日(月)~23日(金)  
場所: オンライン(オンデマンド)形式  
演題: ①「既存コンクリート構造物の性能評価指針について」  
講師: 西脇智哉氏(東北大学)  
演題: ②「鉄筋コンクリート造建物の耐力度調査について」

- 講師：西田哲也氏（秋田県立大学）  
演題：③「コンクリート水利構造物からの石灰石の溶脱現象について」
- 講師：北辻政文氏（宮城大学）  
演題：④「東北地方における橋梁の劣化・損傷の現状と課題」
- 講師：飯土井剛氏（㈱復建技術コンサルタント）
- 8)（関東支部）キング・オブ・コンクリート 2022  
日時：9月26日（月）  
場所：東京工業大学大岡山キャンパス
- 9)（中部支部）支部活動報告会特別講演会  
日時：5月31日（火）  
場所：名古屋大学 ES ホール（ハイブリッド形式）  
演題：①「東海コンクリート診断士の活動」  
講師：山内昌氏（東海コンクリート診断士会）  
演題：②「インフラメンテナンス国民会議・中部フォーラムの活動」  
講師：鈴木正樹氏（インフラメンテナンス国民会議）  
演題：③「非破壊試験法によるコンクリート構造物の検査・診断技術の現状と問題点」  
講師：山田和夫氏（愛知工業大学）
- 10)（中部支部）学生研修会  
日時：9月1日（木）  
場所：北陸新幹線敦賀駅から回送線高架橋，日本ピーエス敦賀工場
- 11)（中部支部）現場見学会  
日時：10月31日（月）  
場所：設楽根羽5号橋
- 12)（中部支部）支部総会特別講演会  
日時：1月24日（火）  
場所：名古屋大学 ES ホール（ハイブリッド形式）  
演題：「日本初の世界標準アリーナ施工」  
講師：北川直樹氏（前田建設工業㈱）
- 13)（近畿支部）支部総会特別講演会  
日時：5月16日（月）  
場所：大阪科学技術センター 8F 中ホール（ハイブリッド形式）  
演題：「うめきた（大阪）地下駅建設工事における温度ひび割れ抑制の取り組み」  
講師：藤岡慶祐氏（西日本旅客鉄㈱）
- 14)（近畿支部）「コンクリート試験の省力化に関する研究委員会報告会」  
日時：3月10日（金）  
場所：大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田常翔ホール（ハイブリッド形式）
- 15)（中国支部）支部総会特別講演会  
日時：5月20日（金）  
場所：広島工業大学・広島校舎  
演題：「生コンクリートの呼び強度と土木学会における特性値」  
講師：綾野克紀氏（岡山大学）
- 16)（中国支部）「わかりやすいコンクリート」講習会  
日時：12月9日（金）  
場所：広島工業大学・広島校舎  
演題：①「劣化コンクリートの劣化メカニズム・診断・補修」
- 講師：河合研至氏（広島大学）  
演題：②「ジオポリマーコンクリートについて」  
講師：周藤将司氏（松江高専）  
演題：③「既存不適格 RC 構造物から切り出した実部材の材料および構造性能」  
講師：貞末和史氏（広島工業大学）
- 17)（中国支部）特別講演会「新任教員による講演」  
日時：3月13日（月）  
場所：KDDI 維新ホール（ハイブリッド形式）  
演題：①「DX 時代におけるコンクリート構造物の維持管理」  
講師：江本久雄氏（鳥取大学）  
演題：②「橋梁点検・維持管理の効率化ならびに高度化に向けて」  
講師：蓮池里菜氏（山口大学）
- 18)（中国支部）中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 中間報告会  
日時：3月13日（月）  
場所：KDDI 維新ホール（ハイブリッド形式）  
内容：各県からの報告  
①岡山県  
②鳥取県  
③広島県  
④島根県  
⑤山口県
- 19)（四国支部）「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告  
日時：5月10日（火）  
場所：香川県コンクリート工業組合（オンライン（オンデマンド）形式）  
演題：第14回コンクリート甲子園 モデル活動校多度津高校  
講師：尾崎秀典氏（多度津高校）
- 20)（四国支部）コンクリートに関する技術交流会・第3回  
日時：6月21日（火）  
場所：オンライン（ライブ）形式  
演題：①「目視情報を活用した RC 構造物の剥落予測手法」  
講師：角野拓真氏（阿南高専）  
演題：②「清水建設の最新の土木施工におけるコンクリート技術の紹介」  
講師：藤井禎氏（清水建設㈱）
- 21)（四国支部）生コンセミナー in 香川  
日時：11月2日（水）  
場所：ホテルパールガーデン
- 22)（四国支部）コンクリートに関する技術交流会・第4回  
日時：11月9日（水）  
場所：オンライン（ライブ）形式  
演題：①「シリンドーを用いた簡易透気試験装置の紹介」  
講師：渡邊健氏（徳島大学）  
演題：②「ひび割れ抑制を目的とした膨張コンクリートの選定と効果について」  
講師：下村昭司氏（大旺新洋㈱）
- 23)（四国支部）生コンセミナー in 高知（「四国の生コン技術力活性化委員会【第5期】」の成果報告会および活動10

周年記念講演)

日 時：3月10日(金)

場 所：サンピアシリーズ

24) (九州支部) 支部総会特別講演会

日 時：4月22日(金)

場 所：大博多ビル・オンライン配信

演 題：「私のアーカイブ—塩害研究の過去、現在、そして未来—」

講 師：武若耕司氏(鹿児島大学名誉教授)

25) (九州支部) 第4回学生シンポジウム

日 時：10月29日(土)

場 所：リファレンス駅東・オンライン配信

26) (九州支部) 令和4年度 JCI 九州支部現場見学会

日 時：3月28日(火)

場 所：港湾空港技術研究所(オンライン(ライブ形式)による見学)

27) (九州支部) 九州地区における環境外力のデータベース構築とその活用に関する成果報告講習会

日 時：3月29日(水)

場 所：オンライン(ライブ)形式

28) (九州支部) 管理者直営補修における簡易補修方法の提案と評価に関する研究成果報告講習会

日 時：3月29日(水)

場 所：オンライン(ライブ)形式

### 3. 国際会議

- 1) RILEM Week 2022 に合わせて、9月7日～9日に京都で「建造物の再生・保存に関する国際会議(ICRCS 2022)」をハイブリッド形式で開催した。国内から121名(うちオンライン21名)、国外30か国から140名(うちオンライン30名)の計261名(うちオンライン51名)の参加があった。

## [公3 表彰事業]

### 1. 学会賞

2022年日本コンクリート工学会賞(論文賞, 技術賞, 作品賞, 奨励賞, 功労賞)として次に示す論文賞5件, 技術賞2件, 作品賞5件, 奨励賞2件, 功労賞16名を選出した。

#### (1) 論文賞

- 1) セメント系材料を用いた建設用3Dプリンティング技術の開発と適用実証(総合題目)  
木ノ村幸士(大成建設株)
- 2) Meso-Scale Modelling of the Mechanical Properties of Concrete Affected by Radiation-Induced Aggregate Expansion  
篠野 宏(Ove Arup & Partners Japan Ltd)  
丸山 一平(名古屋大学)  
澤田 祥平(鹿島建設株)  
大窪 貴洋(千葉大学)  
村上 健太(長岡科学技術大学)  
鈴木 清照(三菱総合研究所株)
- 3) MOSAIC: An Effective FFT-based Numerical Method to Assess Aging Properties of Concrete  
Christa E. Torrence(Texas A&M University)  
Alain B. Giorla(Oak Ridge National Laboratory)

Yujie Li(Oak Ridge National Laboratory)

Elena Tajuelo Rodriguez(Oak Ridge National Laboratory)

Jose D. Arregui Mena(Oak Ridge National Laboratory)

Thomas M. Rosseel(Oak Ridge National Laboratory)

Yann Le Pape(Oak Ridge National Laboratory)

4) Structural Performance Evaluation and Monitoring of Reinforced Concrete Shear Walls Affected by Alkali-Silica Reactions

澤田 祥平(鹿島建設株)

高稻 宜和(鹿島建設株)

岡安 隆史(鹿島建設株)

二村 有則(鹿島建設株)

島本 龍(中部電力株)

5) 都市ごみ焼却灰を使用したジオポリマーコンクリートおよびその環境安全性に関する研究(総合題目)

李 柱国(山口大学)

近藤 瑠星(極東興和株)

池田 攻(山口大学)

#### (2) 技術賞

1) 建設用3Dプリンティング技術の開発と実用化(総合題目)

小倉 大季(清水建設株)

山本 伸也(清水建設株)

阿部 寛之(清水建設株)

菊地 竜(清水建設株)

2) 加圧履歴に基づいたコンクリートの圧送性の室内評価試験方法に関する研究

梁 俊(大成建設株)

坂本 淳(大成建設株)

丸屋 剛(大成建設株)

橋本 貴之(大成建設株)

#### (3) 作品賞

1) 早稲田大学本庄高等学院体育館

飯島 敦義(株日建設計)

山本 裕(株日建設計)

黒川 巧(株日建設計)

高田 悟(戸田建設株)

森崎 洋輔(戸田建設株)

梅本 宗宏(戸田建設株)

2) 栃木県総合運動公園陸上競技場

福田 富一(栃木県)

小塩 智也(株久米設計)

奥野 親正(株久米設計)

井上 啓(株久米設計)

山崎 慎介(株久米設計)

石井 正樹(鹿島建設株)

戸谷 雅樹(鹿島建設株)

藤森 啓祐(鹿島建設株)

3) リバーホールディングス両国

川村 聡(株竹中工務店)

鴨下 直登(株竹中工務店)

花岡 郁哉(株竹中工務店)

永井 一嘉(株竹中工務店)

4) 国立競技場



芦立 訓 (独日本スポーツ振興センター)  
 水谷 太朗 (大成建設株)  
 河本慎一郎 (大成建設株)  
 村瀬 正樹 (大成建設株)  
 小林 祥二 (大成建設株)

5) 龍谷大学深草キャンパス成就館

赤澤 資貴 (株竹中工務店)  
 鈴木 直幹 (株竹中工務店)  
 花岡 淳史 (株竹中工務店)  
 武田 尚久 (株飯田善彦建築工房)  
 望月 泰宏 (金箱構造設計事務所)

(4) 奨励賞

1) Study on the Effect of Different Shear Reinforcement Shapes on Shear Failure Behavior and Shear Resistance Mechanism of RC Beams (総合題目)

河村 圭亮 (大成建設株)

2) Kinematic Model for Shear Assessment of RC Short Columns Subjected to Frost Damage

金澤 健 (北海学園大学)

(5) 功労賞

今本 啓一	石川 嘉崇	鍵本 広之
掛川 勝	金久保利之	河野 進
河野 政典	佐藤 靖彦	瀬古 繁喜
谷村 充	名倉 健二	服部 篤史
原田 修輔	丸田 誠	盛岡 実
渡邊 弘子		

2. 支部表彰

支部別に以下の表彰を行った。

1) 北海道支部

支部優秀学生賞 3名

2) 東北支部

支部奨励賞 2件, 支部論文賞 1件

3) 近畿支部

支部奨励賞 4名

4) 中国支部

コンクリートマイスター認定 1名

5) 九州支部

支部長表彰

大学院 17名, 大学 26名, 高専 5名,  
 専修 1名 合計 49名

III 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・主任技士試験

11月27日に、全国9地域(札幌, 仙台, 東京, 名古屋, 大阪, 広島, 高松, 福岡, 沖縄)において、コンクリート技士・主任技士試験を実施した。

全国の出願者はコンクリート技士試験8672名(前年度9037名)、コンクリート主任技士試験2946名(前年度3018名)で、合格者はコンクリート技士試験2764名(合格率31.9%)、コンクリート主任技士試験402名(合格率13.7%)であった。

(2) コンクリート技士・主任技士研修

第36回コンクリート技士研修および第7回コンクリート主任技士研修は、eラーニング形式と対面形式の併用で開催を予定していたが、コロナ禍のため、対面形式のみ自己学習および研修理解度確認テストの提出に変更して実施した。

全国の出願者はコンクリート技士9690名、コンクリート主任技士2485名の合計12175名(前年度コンクリート技士9264名、コンクリート主任技士2255名の合計11519名)であった。

(3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士・主任技士試験合格者からの申請に基づき、コンクリート技士2711名(登録率98.1%)、コンクリート主任技士401名(登録率99.8%)の登録を行った。また、登録有効期間(4年)満了となる登録者および未登録者のうち、コンクリート技士・主任技士研修を受講したコンクリート技士9797名、コンクリート主任技士2370名の更新・再登録を行った。この結果、2023年4月1日における登録者数は、コンクリート技士49285名、コンクリート主任技士11332名となった。

なお、コンクリート技士・主任技士試験の2022年度の出願者数および合格者数ならびに2023年4月1日における登録者数の業種別内訳は、次表のとおりである。

業種	試験		主任技士試験		登録者	
	受験者	合格者	受験者	合格者	技士	主任技士
官庁	30	20	5	3	277	39
独立行政法人・事業団等	33	15	11	1	312	74
地方自治体等	90	47	38	10	1064	176
大学・学校	4	3	3	1	69	59
設計事務所	41	21	9	3	457	116
コンサルタント	537	196	85	22	2798	666
エンジニアリング	93	34	12	3	150	25
セメント	119	51	65	16	672	394
混和材料	58	26	77	7	802	394
生コンクリート	1859	489	1410	96	10129	3863
コンクリート製品	887	246	224	26	4120	676
建設	4025	1326	803	184	23680	3793
調査診断	157	30	11	0	150	47
試験	142	34	64	10	195	62
電力・ガス	83	45	13	2	367	98
鉄道	144	51	9	3	569	74
道路	76	30	22	3	586	76
その他	294	100	85	12	2888	700
合計	8672	2764	2946	402	49285	11332

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習

第22回コンクリート診断士講習をeラーニング形式にて、4月8日から5月16日に実施した。受講申込者は3344名(前年度3303名)であった。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験は7月24日に、全国9地域(札幌, 仙台, 東京, 名古屋, 大阪, 広島, 高松, 福岡, 沖縄)において実施した。

全国の出願者は3474名(前年度3611名)で、合格者は557名(合格率16.0%)であった。

(3) コンクリート診断士研修

第18回コンクリート診断士研修eラーニングを実施した。全国の出願者は3454名(前年度3031名)であった。

(4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士試験合格者からの申請に基づき、557名（登録率100.0%）の登録を行った。また、登録有効期間（4年）満了となる登録者および未登録者のうち、コンクリート診断士研修を受講した3454名の更新・再登録を行った。この結果、2023年4月1日におけるコンクリート診断士登録者数は14623名となった。

なお、コンクリート診断士の2022年度の実験者数および合格者数ならびに2023年4月1日における登録者数の業種別内訳は、次表のとおりである。

業 種	受 験 者	合 格 者	登 録 者
官 庁	40	4	138
独立行政法人・事業団等	32	7	178
地方自治体等	152	35	831
大学・学校	2	0	70
設計事務所	49	2	200
コンサルタント	852	135	3654
エンジニアリング	69	11	231
セメント	62	19	283
混和材料	23	4	149
生コンクリート	267	29	700
コンクリート製品	94	16	417
建 設	1339	197	5639
調査診断	122	14	452
試 験	37	6	90
電力・ガス	54	20	212
鉄 道	55	17	291
道 路	103	17	356
その他	122	24	732
合 計	3474	557	14623

### 3. 資格・講習委員会

コンクリート診断士試験およびコンクリート技士・主任技士試験合格者の内定を行った。また、国土交通省の技術者資格登録の対応を行った。

#### [収2 その他の収益事業]

#### 1. コンクリートテクノプラザ2022

コンクリート工学年次大会2022（千葉）と併行して、オンラインによるバーチャルコンクリートテクノプラザ2022を開催した。

展示 41社 入場者数 延べ1657名  
技術紹介セッション 23件

## IV そ の 他

### 1. 名誉会員の称号授与

第55回定時社員総会の決定に基づき、阿部道彦氏、河井徹氏、坂井悦郎氏、近田孝夫氏、早川光敬氏の5名に名誉会員の称号を授与した。

### 2. 終身会員およびフェロー会員の表彰

令和4年度の終身会員1名、フェロー会員10名を認定し、会誌2月号にて公表した。

### 3. 定款・規則改定委員会

令和4年度については、定款および工学会規則の改定はなかった。

### 4. 会員の動向

会員種別	令和3年度末 会 員 数	令和4年度中の異動			令和4年度末 会 員 数
		入会	退会	異動	
正 会 員	6101	196	542	-10	5745
学 生 会 員	172	204	18	10	368
第1種団体会員	41	2	0	-	43
第2種団体会員	344	7	6	-	345
計	6658	409	566	0	6501

\*異動：学生会員から正会員への変更等

### 5. 役員の異動

#### (1) 退 任

令和4年6月15日付で退任した役員は次のとおりである。

会 長 二羽淳一郎  
副 会 長 橘高義典, 原田修輔  
専務理事 信田佳延  
理 事 綾野克紀, 大久保孝昭, 鍵本広之,  
香取慶一, 塩原 等, 杉山隆文,  
須田久美子, 谷村 充, 成瀬浩康,  
松島 学, 村田一郎

監 事 真野孝次

令和4年10月25日付で退任した役員は次のとおりである。

理 事 吉森和人（逝去）

#### (2) 就 任

令和4年6月15日付で就任した役員は次のとおりである。

会 長 西山峰広  
副 会 長 大久保孝昭, 草野昌夫  
専務理事 信田佳延  
理 事 五十嵐浩行, 上野 敦, 笠井 浩,  
兼松 学, 竹田宣典, 津吉 毅,  
橋本親典, 濱田秀則, 深瀬孝之,  
前田匡樹, 宮澤伸吾, 吉森和人  
監 事 鬼東俊一

貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	525 471 924	474 338 197	51 133 727
未収金	9 469 285	7 320 589	2 148 696
前払金	23 344 737	22 127 796	1 216 941
棚卸資産	8 302 813	5 490 527	2 812 286
流動資産合計	566 588 759	509 277 109	57 311 650
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	250 000 000	250 000 000	0
基本財産合計	250 000 000	250 000 000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当預金	45 978 300	39 363 000	6 615 300
減価償却引当預金	19 770 000	19 770 000	0
資格付与事業積立預金	100 000 000	100 000 000	0
会員システム構築積立預金	45 100 000	55 300 000	▲10 200 000
事務所原状回復費用積立預金	19 440 000	19 440 000	0
補助償却引当金	1 254 508	2 025 003	▲770 495
補助償却引当金	7 062 000	9 180 600	▲2 118 600
特定資産合計	238 604 808	245 078 603	▲6 473 795
(3) その他固定資産			
什器備品	18 888 705	9 250 345	9 638 360
造作設備	1 873 271	1 819 358	53 913
ソフトウェア	31 386 217	53 200 862	▲21 814 645
特許権	333 522	444 696	▲111 174
リース資産	1 413 288	2 668 464	▲1 255 176
電話加入権	438 451	438 451	0
差入保証金	58 536 000	58 536 000	0
その他固定資産計	112 869 454	126 358 176	▲13 488 722
固定資産合計	601 474 262	621 436 779	▲19 962 517
資産合計	1 168 063 021	1 130 713 888	37 349 133
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	49 054 364	39 442 037	9 612 327
預り金	1 575 157	1 308 846	266 311
前受金	131 706 000	140 267 200	▲8 561 200
賞与引当金	12 114 000	11 153 000	961 000
流動負債合計	194 449 521	192 171 083	2 278 438
2. 固定負債			
退職給付引当金	45 978 300	39 363 000	6 615 300
リース債務	1 413 288	2 668 464	▲1 255 176
資産除去債務	19 440 000	19 440 000	0
固定負債合計	66 831 588	61 471 464	5 360 124
負債合計	261 281 109	253 642 547	7 638 562
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	8 316 508	11 205 603	▲2 889 095
指定正味財産合計	8 316 508	11 205 603	▲2 889 095
(うち基本財産充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )
(うち特定財産充当額)	( 8 316 508 )	( 11 205 603 )	( ▲2 889 095 )
2. 一般正味財産			
(うち基本財産充当額)	898 465 404	865 865 738	32 599 666
(うち特定財産充当額)	(250 000 000)	(250 000 000)	( 0 )
(うち特定財産充当額)	(164 870 000)	(175 070 000)	(▲10 200 000)
正味財産合計	906 781 912	877 071 341	29 710 571
負債及び正味財産合計	1 168 063 021	1 130 713 888	37 349 133

正味財産増減計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	4 997	4 997	0
特定資産運用益			
特定資産受取利息	4 688	3 773	915
受取会費			
受取入金会金	444 000	458 000	▲14 000
受取会費	95 811 500	97 043 500	▲1 232 000
事業収益			
受託研究事業収益	16 962 478	15 567 278	1 395 200
出版事業収益	66 823 127	46 464 662	20 358 465
会誌発行事業収益	4 344 637	5 379 952	▲1 035 315
年次大会事業収益	14 656 500	14 154 000	502 500
講演会等事業収益	22 719 360	11 918 270	10 801 090
国際会議事業収益	23 746 000	0	23 746 000
技士・主任技士事業収益	356 182 125	345 092 573	11 089 552
診断士事業収益	190 750 898	187 490 508	3 260 390
テクノプラザ他事業収益	23 045 000	25 080 000	▲2 035 000
受取寄付金			
受取寄付金振替額	2 889 095	2 525 170	363 925
雑収			
受取利息	5 891	5 421	470
印税収益	2 390 348	2 247 544	142 804
雑収	1 207 270	1 125 764	81 506
経常収益計	821 987 914	754 561 412	67 426 502
(2) 経常費用			
調査研究事業費	50 165 627	55 041 800	▲4 876 173
標準化事業費	16 245 307	11 253 874	4 991 433
国際化事業費	17 653 657	6 297 389	11 356 268
受託研究事業費	9 965 098	10 350 252	▲385 154
出版事業費	68 981 800	68 167 480	814 320
会誌発行事業費	83 439 573	81 879 418	1 560 155
広報事業費	28 933 360	28 224 770	708 590
助成金事業費	7 443 674	10 300 758	▲2 857 084
年次大会事業費	40 058 213	36 474 045	3 584 168
講演会等事業費	33 883 367	25 839 076	8 044 291
国際会議事業費	26 532 768	0	26 532 768
表彰事業費	12 263 000	8 986 395	3 276 605
技士・主任技士事業費	197 879 735	202 008 818	▲4 129 083
診断士事業費	146 312 041	144 607 841	1 704 200
テクノプラザ他事業費	13 866 920	22 666 443	▲8 799 523
管理費			
人件費	11 466 600	8 854 107	2 612 493
会議費	11 867 597	7 152 839	4 714 758
事務費	12 429 911	17 602 197	▲5 172 286
経常費用計	789 388 248	745 707 502	43 680 746
当期経常増減額	32 599 666	8 853 910	23 745 756
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損		105 307	▲105 307
経常外費用計	0	105 307	▲105 307
当期経常外増減額	0	▲105 307	105 307
当期一般正味財産増減額	32 599 666	8 748 603	23 851 063
一般正味財産 期首残高	865 865 738	857 117 135	8 748 603
一般正味財産 期末残高	898 465 404	865 865 738	32 599 666
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金			
受取寄付金 指定一般正味財産への振替額	2 889 095	500 000	▲500 000
2 889 095	2 525 170	363 925	
当期指定正味財産増減額	▲2 889 095	▲2 025 170	▲863 925
指定正味財産 期首残高	11 205 603	13 230 773	▲2 025 170
指定正味財産 期末残高	8 316 508	11 205 603	▲2 889 095
III 正味財産 期末残高	906 781 912	877 071 341	29 710 571



## 令和5年度事業計画の概要

### I 公益目的事業

#### [公1 コンクリートに関する調査研究事業]

##### 1. 調査研究事業

- (1) 研究委員会所管の委員会
  - (A) 令和5年度延長する研究専門委員会
    - 1) 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会 (令和3～5年度)
  - (B) 令和5年度継続する研究専門委員会
    - 2) セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会 (令和4～5年度)
    - 3) コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会 (令和4～5年度)
  - (C) 令和5年度新規の研究専門委員会
    - 4) コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会 (令和5～6年度)
    - 5) コンクリートのアカデミックデータベースの整理とAIへの活用に関する研究委員会 (令和5～6年度)
    - 6) コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会 (令和5～6年度)
    - 7) 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会 (令和5～6年度)
    - 8) コンクリート用自己治癒材の効果とその評価方法に関するFS委員会 (令和5年度FS)
- (2) 技術委員会所管の委員会
  - 1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会 (平成29～令和8年度)
  - 2) コンクリート基本技術調査委員会 (令和4～5年度)
  - 3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会 (令和4～5年度)
- (3) 支部研究委員会(確定している委員会のみ記載)
  - 1) (北海道支部) 寒冷環境下におけるコンクリートの品質・耐凍害性確保に関する研究委員会 (令和3～6年度)
  - 2) (北海道支部) 時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造物設計に関する研究委員会 (令和4～6年度)
  - 3) (東北支部) 東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会 (令和4～5年度)
  - 4) (中部支部) 小規模橋梁を対象としたコンクリート用DIY補修のあり方調査研究委員会 (令和3～5年度)
  - 5) (近畿支部) 百石齋(田邊朔郎書齋)調査委員会 (令和3～5年度)
  - 6) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 (令和3～7年度)
  - 7) (中国支部) RC構造物の微生物調査委員会 (令和4～5年度)
  - 8) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設委員会)
  - 9) (四国支部) コンクリート工の生産性向上のためのトラックアジテータ車の高性能化にする研究委員会 (令和5～6年度)
  - 10) (九州支部) 九州に堆積する火山噴出物の活用方法に関

- する研究専門委員会 (令和4～6年度)
  - 11) (九州支部) 非破壊試験による表層部コンクリートの品質評価に関する研究専門委員会 (令和5～6年度)
- 延長する研究専門委員会の計画
- (1-A-1) JCI-TC 211 A 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会 (令和3～5年度)

ASRやDEFなどの内部膨張反応(ISR)研究の今後のあるべき方向性を提示することを目的として、微視的機構から構造物の挙動を評価するためのモデリングや試験・分析法の現状と課題の整理などの活動を2年間行った。本年度は、これまでに検討してきた内容を報告書として取りまとめ、成果報告会・シンポジウムを開催する。

##### ○継続の研究専門委員会の計画

- (1-B-1) JCI-TC 221 A セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会 (令和4～5年度)

セメント・コンクリートの環境影響を多角的な視点から総合的かつ統一的に評価する手法を構築することを目的とする。具体的には、セメント、骨材等のコンクリート構成材料、コンクリートならびにコンクリート構造物等の環境影響評価のモデルケースを構築し、一般に広く提供することを目指す。本年度は、前年度の活動成果を踏まえ、土木構造物、建築物をモデルケースとして環境影響評価を実施し、CO<sub>2</sub>排出量のみに限定されない多角的な評価の有効性、総合的・統一的な評価の妥当性について検討する。

- (1-B-2) JCI-TC 222 A コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会 (令和4～5年度)

コンクリートに作用する水が腐食に与える影響について整理し、鉄筋腐食を統一的に取扱うためのシナリオを作成することを目的とする。そのために、前年度に引き続き主に次の2つの活動を行う。1) 文献調査を行い、塩化物イオン存在下、あるいはpHが低下した状態において、腐食に与える水の影響を整理し、体系化する。湿度がどの程度以上であれば湿潤状態なのかについては、塩化物イオン量で変わる可能性があるため、必要に応じて室内試験も実施する。2) 実際に乾湿繰返しにより腐食が進行している構造物の調査を行い、現場における湿潤と乾燥の影響要因を整理する。本年度前半は文献調査および現場調査を行い、特に乾湿繰返しによる腐食に与える影響因子について整理する。後半は鉄筋腐食を統一的に取扱うためのシナリオデザインの構築を目指す。

##### ○新規の研究専門委員会の計画

- (1-C-1) JCI-TC 231 A コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会 (令和5～6年度)

石灰石微粉末をコンクリート分野においてカーボンニュートラル材料としても積極的に活用していくために、その現況と、効果や課題をとりまとめ、実用に資する資料を提示することを目的として、3つのWGにおいて以下のような活動を行う。①石灰石微粉末を活用したコンクリートの実績について、各種基準類における記載内容の文献調査、コンクリート製造分野における配(調)合の種類等の特徴や出荷実績の詳細なヒアリング調査を行い、実状を明らかにする。②セメント製造分野等において、海外も含めた石灰石微粉末の活用方法の取組みを主に文献をもとに調査するとともに、カーボンニュートラル技術としての石灰石微粉末(炭酸カルシウム粉末)の活用事例も調査し、今後の展望を検討する。③石灰石微粉末の製造・流通の状況、利用する段階での管理方法の実状と課題をヒアリング等で調査すると

ともに、コンクリート製品などでの効果を評価する実験等も併せて石灰石微粉末の利用の効果を明らかにする。また、材料の規格化の方向性を検討する。

(1-C-2) JCI-TC 232 A コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委員会  
(令和 5～6 年度)

コンクリート構造物に関する実務での設計や維持管理体系の高度化に対し、今後活用が期待される AI・機械学習技術の利用を促進させることを目的として、コンクリートの材料および構造両面でのビッグデータの収集方法の構築と、AI・機械学習への活用方法の提案を行う。具体的には、JCI ならびに各種学会で発表された実験および実構造物データを項目ごとに抽出し、これらの整理方法や公開方法を議論し、データを一元的に集約するとともに、これらのデータを AI・機械学習に活用し、コンクリート構造物の構造性能や材料挙動等に関する予測の回帰式等、具体的なモデルの構築手順を提示する。

(1-C-3) JCI-TC 233 A コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会  
(令和 5～6 年度)

建築・土木構造における、コンクリート構造物の非線形地震応答解析を用いる性能評価型耐震設計法を対象として、米国コンクリート工学会 ACI 374 委員会と戦略的交流の下で、日米の実務における非線形時刻歴応答解析の用いられ方に関して、適用範囲、コンクリート部材や要素のモデル化、設計クライテリア、信頼性、利用上のルール・留意事項などについての比較を行い、日本の方法の課題の抽出と、改善方策の提案、ならびにその実現のためのロードマップの作成ならびにコンクリート構造の研究コミュニティが取り組むべき研究課題を抽出することを目標とする。

(1-C-4) JCI-TC 234 A 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会  
(令和 5～6 年度)

現行の定期点検要領との接続を意識しつつ、また「鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化研究委員会 (JCI-TC 112 A)」で問題提起された内容を踏襲すべく、既存実構造物における腐食した鋼材の時空間で変化する腐食量を推定可能とする手法を提示することを目的とする。具体的には、現状の定期点検で得られる情報に基づく対象構造物の選定手法の検討、現時点における鋼材の腐食量を推定可能とする診断手法の検討、その診断手法により得られる離散的な推定値に立脚した腐食量の連続した空間分布の推定手法の検討、ミクロスケールにおける腐食反応モデルのマクロスケールとしての時空間への拡張手法の検討を行う。

(1-C-5) JCI-TC 235 F コンクリート用自己治癒材の効果とその評価方法に関する FS 委員会 (令和 5 年度 FS)

環境条件に応じた適切な自己治癒材の選定や適用性を整理し、その効果を実験室レベルで確認する方法、ならびに供用中の構造物における評価方法を確立するため、(1) 自己治癒材とセメント硬化体との相互作用、(2) 環境ごとの自己治癒コンクリートの適用性、および (3) 自己治癒材の効果の評価方法、に関する既往の知見を最新の計測方法を含めて整理し、特にひび割れ補修、防食に特化した自己治癒効果の評価に関する知見をとりまとめる。

○技術委員会所管の委員会の計画

(2-1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会  
前年度までの 6 か年にわたる活動に引き続き、共通試験 WG

およびモニタリング WG にて活動を行う。共通試験 WG では、「端島 (通称『軍艦島』) における補修材の効果検証に関する共通試験実施についての基本覚書」に則って、端島において様々な補修を施して暴露した鉄筋コンクリート試験体を対象に、定期的に劣化の進行状況や物理的・化学的な変化を観察・測定し、その結果に基づく分析から、塩害劣化の進行・抑制のメカニズムおよび補修効果を検討する。モニタリング WG では、端島に残存する自然倒壊が間近に迫っている建築物 (30 号棟) 等を対象に実施されている遠隔地モニタリングの結果に基づく分析・解析を行い、鉄筋コンクリート構造物の自然倒壊のメカニズムおよびその時期の予測について検討を行う。

(2-2) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリート工事の実務者を対象に、コンクリートの製造および施工に関わる基本技術と新技術を整理し情報発信を行うことを目的とする。これまで、準備 WG で鉄筋工について、品質管理・検査 WG で品質管理および検査のあり方について、運搬 WG でコンクリートの運搬について検討を行ってきたが、本年度は、その成果の取りまとめを行う。

(2-3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会

2018～2021 年度に活動した「マスコンクリートのひび割れに関する調査委員会」の成果を基にした「マスコンクリートのひび割れ制御指針」改訂版の 2024 年刊行を目指しており、本年度は、7 つの WG (制御 WG、DEF 検討 WG、ひび割れ照査 WG、設計用値 WG、簡易評価 WG、施工検査 WG および試験法 WG) に分かれて検討した内容を取りまとめた改訂原案を完成させ、規準・指針管理委員会および理事会に諮る。

## 2. 標準化事業

(1) 規準・指針管理委員会

研究専門委員会および規準・指針原案作成委員会等から提案および審査の申請がなされた規準原案・指針原案に対し、「日本コンクリート工学会規準・指針の制定/改正に関する規程」に基づく審査を行い、妥当と判断された原案については理事会へ付議する。また、制定済みの JCI 規準で制定 (もしくは前回確認および改正) から 5 年経過したものについて使用状況の調査を行い、確認/要改正/要 JIS 化/廃止の判断を行う。

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

2025 年度に見直し期限を迎える規格について、改正要否の検討を行う。

(3) ISO/TC 71 対応国内委員会

1) ISO/TC 71 総会および各 SC の会合に TC 議長・委員会マネージャー、SC 議長・委員会マネージャー、WG コンビナーおよび関連分野のエキスパートを派遣し、日本が主導する規格開発の説明を行い、規格作成に日本の意見を反映させる。

2) ISO/TC 71 において、次の議長、委員会マネージャー、コンビナー、エキスパート (WG)、および SC 担当委員の役割を遂行する。

① TC 71 (コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリート) : 議長および委員会マネージャー

② SC 1 (コンクリートの試験方法) : エキスパート (WG)

③ SC 3 (コンクリートの製造及び施工) : コンビナーおよびエキスパート (WG)

④ SC 4 (構造コンクリートの要求性能) : エキスパート

(WG)

- ⑤SC 5 (コンクリート構造物の簡易設計標準) : エキスパート (WG)
  - ⑥SC 6 (コンクリートの新しい補強材) : 議長, 委員会マネージャー, コンビーナおよびエキスパート (WG)
  - ⑦SC 7 (コンクリート構造物の維持および補修) : 議長, コンビーナ, エキスパート (WG)
  - ⑧SC 8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント) : 議長, 委員会マネージャー, コンビーナおよびエキスパート (WG)
  - ⑨TC 71/CAG (議長諮問グループ) : コンビーナ
  - ⑩TC 71/WG 1 (コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント) : コンビーナおよびエキスパート
  - ⑪TC 71/WG 2 (コンクリート充填鋼管複合構造の設計標準) : エキスパート
- 3) 国内関係機関と連携し, ISO/TC 71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。
- 4) 日本から提案する次の ISO 規格案について, 国内外において情報収集・意見収集を行うとともに, 各国との調整を行い, 早期の規格化を図る。

(新規)

- ①コンクリートおよび構成材料への CO<sub>2</sub> 固定量の評価方法に関する国際標準

(継続)

- ①コンクリートの発注・製造・品質管理に関する ISO 22965-1 および ISO 22965-2 (改正)
  - ②コンクリート構造物の地震後継続利用のための性能評価に関する国際標準 (ISO 19338 の Annex)
  - ③繊維強化ポリマー (FRP) によるコンクリートの補強 - 試験方法 ISO 10406-1 および ISO 10406-2 (改正)
  - ④コンクリート構造物の FRP 補強材 : FRP シートの仕様 ISO 18319 (改正)
  - ⑤コンクリートおよびモルタル用合成短繊維に関する規格 ISO/PWI 13182
  - ⑥セメント系材料を用いた補修補強工法に関する規格 ISO/DIS 5091-1 ~ 4
  - ⑦コンクリート構造物の維持補修に関する ISO 16311-1, ISO 16311-2, ISO 16311-3 および ISO 16311-4 (改正)
  - ⑧コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO 13315-1 および ISO 13315-2 (改正)
  - ⑨コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO 13315-3 (構成材料及びコンクリートの製造), ISO 13315-5 (コンクリート構造物の施工) ならびに ISO 13315-7 (最終段階)
  - ⑩コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントにおける計画・設計段階でのマネジメントに関する規格 ISO/CD 22040-2
  - ⑪コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントにおける建設 (施工) 段階でのマネジメントに関する規格 ISO/PWI 22040-3
- 5) ISO/TC 156/SC 1 (Corrosion control engineering life cycle) のリエゾンマネージャーを務める。
- 6) コンクリート用語 (環境配慮型コンクリートに関する用語を含む) の定義についての検討  
WG 発足を ISO/TC 71 へ提案すべく, その準備に向けたタスクフォースを ISO/TC 71 対応国内委員会に設置し

て活動を開始する。

- (4) 再生骨材に関する JIS 改正原案作成委員会  
2022 年度に作成した再生骨材および再生骨材コンクリートに関する JIS 改正原案について, 日本規格協会との調整および日本産業標準調査会での審議結果を踏まえて, 修正・追加を施す。  
JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)  
JIS A 5022 (再生骨材コンクリート M)  
JIS A 5023 (再生骨材コンクリート L)

### 3. 国際化事業

- (1) fib  
技術評議会と総会に代表委員を派遣する。
- (2) ACI  
1) 代表委員を派遣する。  
2) 4月1日~5日に米国 (サンフランシスコ) にて開催される 2023 ACI Concrete Convention にて, ACI と協力して ACI-JCI 6th Joint Seminar を実施する。
- (3) RILEM  
RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。
- (4) ACF  
代表委員を派遣するとともに, ACF の諸事業活動を積極的に支援する。ACF 総会・Executive Council 会議等の時期や場所の詳細は未定である。
- (5) TCI  
7月6日に福岡で第3回 JCI-TCI ワークショップを開催する。

### 4. 受託研究事業

- (1) ISO/TC 71 対応国内委員会  
国際標準の開発を目的とした次の受託研究業務を実施する。  
1) Sustainable Development Goals の達成を実現するレジリエントなコンクリート構造物の整備に関する国際標準化 (TC 71 幹事国対応業務を含む。)
- (2) カーボンリサイクル評価方法の JIS 原案作成委員会  
コンクリートおよび構成材料に固定化された二酸化炭素の評価に関する JIS の開発および国際標準化に向けた準備・対応を行う。

### 5. 出版事業

- (1) 2023 年度コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'23」
- (2) コンクリート技士・主任技士研修テキスト「2023 年度コンクリート技士・主任技士研修テキスト」
- (3) コンクリート診断士研修資料「コンクリート診断士研修資料'23」(ダウンロード版)
- (4) コンクリート診断士講習テキスト「コンクリート診断技術'24」
- (5) コンクリート工学年次論文集 第 45 巻 2023 年 (DVD 版)
- (6) Technical Committee Reports 2023 (JCI 研究委員会報告書要旨 : 電子公開)
- (7) 「微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張反応の評価および予測に関するシンポジウム」委員会報告書・論文集

### 6. 会誌発行事業

- (1) 会誌「コンクリート工学」  
「コンクリート工学」を毎月 1 回刊行して会員に頒布する。ま



た、会員には発刊1年後に電子公開し、非会員には3年後に電子公開する。

年3回の特集号のテーマは以下のとおり予定している。

- 1) リニューアル・解体・再利用 2023年5月号
- 2) 炭酸化/中性化(仮) 2023年9月号
- 3) (未定) 2024年1月号

また、文献調査委員会により審議された「レビュー論文」を年9回掲載する。

- (2) コンクリート工学論文集  
コンクリート工学論文集を電子公開する。
- (3) 英文ジャーナル“Journal of Advanced Concrete Technology”

英文ジャーナル“Journal of Advanced Concrete Technology”を電子公開する。表紙および紙面デザインを変更する。

## 7. 広報事業

### (1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。社会一般に向けた啓蒙活動として、広報委員会のもとでJCIホームページの内容向上を図るとともに、会誌「コンクリート工学」、パンフレット(和文、英文)等により本学会の活動について広報活動を行う。

### (2) 普及活動

普及委員会のもとに以下の専門委員会を設置し活動する。

#### 1) マスコンクリートソフト普及委員会

温度応力に加え湿気移動を考慮した乾燥収縮および自己収縮を考慮した3次元応力解析ソフトJCMAC 3、初期応力を考慮した3次元保有耐力解析ソフトJCMAC 3-U、2次元温度応力解析およびひび割れ幅解析ソフトJCMAC 1・2のサポートならびに普及を図る。令和5年度の主な活動は以下のとおりである。

- ①JCMAC 1・2、JCMAC 3、JCMAC 3-Uのバージョンアップ  
・新たなクリープモデルの追加など
- ②JCMAC 3初級セミナー(1回)の開催
- ③JCMAC 3-Uの英語版の海外への普及活動  
JCI年次大会(九州)での第3回JCI-TCI Workshopの開催
- ④JCMAC 3-PSの開発  
(JCMAC 3-Uにプレストレスの導入を考慮できる機能を追加したバージョン)
- ⑤YouTubeを利用したJCMAC 3 Tutorial 動画の作成・公開
- ⑥JCMAC 1・2、JCMAC 3およびJCMAC 3-Uのサポート

#### 2) コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会

令和4年度に改訂された「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針2022」の講習会の実施等により同指針の普及を図る。主たる活動は以下のとおりである。

- ①国内講習会(札幌、仙台、福岡)の実施
- ②海外講習会(バンコク、ピエンチャン)の実施
- ③2022年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応
- ④2022年版指針マニション編に対する質問や修正指摘等への対応

⑤2022年版指針ひび割れ判定ソフトWeb版に対する質問や修正指摘等への対応

⑥2022年版指針英文化の準備

#### 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会

現行の「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフトLECCAシリーズ」の普及活動に加え、LECCAシリーズをベースとした初学者向けの教育プログラムを作成する。また、コンクリート構造物の耐久設計や維持管理に関する知識と経験が不足している初学者向けの講習会や大学等での講義への活用方法を検討するとともに、その成果を教育プログラムの改良に繋げる。

#### (3) 電子情報化

情報コミュニケーション委員会において、本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い、定期的な更新による情報発信および広報活動を主な事業活動とする。活動は以下のとおりである。

- 1) 月刊コンクリート技術(一般向けコンテンツ)を制作・公開する。
- 2) メールニュースを作成し配信する。
- 3) 研究委員会報告書を会員専用ページに電子公開する。
- 4) 過去コンテンツ(増刊コンクリート技術等)の管理を継続する。
- 5) ホームページを活用したコンクリートに関する技術や研究成果の普及に向けた取り組みを行う。
- 6) ホームページを活用した広報に関する方策を検討する。
- 7) ホームページの追加リニューアル内容(英語版HP等)を検討する。

#### (4) JCI創立60周年記念事業

2025年7月にJCI設立60周年記念事業を実施する。JCI創立60周年記念事業実行委員会にて具体的な当該記念事業の実施内容の決定および準備作業を行う。

## 8. 関連学会との協力活動

(一社)「防災学術連携体」および日本原子力学会主催「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」に委員を派遣するほか、「建設系7学会会長会議」に参画するなど、他学協会との協力活動を行う。

## 9. 助成金事業

助成金制度規則に基づき、コンクリートに関する研究助成およびコンクリートに関する国際会議参加助成を行う。

## [公2 講演会等事業]

### 1. 年次大会事業

#### (1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会2023(九州)を7月5日(水)~7日(金)の3日間、福岡国際会議場で開催する。

- 1) 第45回コンクリート工学講演会
- 2) 生セミナー: テーマ「サステナブルな生コンを目指して」
- 3) コンクリート構造物診断セミナー: テーマ「道守養成講座15年間のあゆみと今後の展望」
- 4) 特別講演会: 講師 石田哲也氏(東京大学大学院工学系研究科・教授)

演題 「コンクリート工学における DX」  
(仮題)

- 5) 見学会：2コースを予定
- 6) 懇親会：福岡サンパレスホテル
- 7) 特別企画：キング・オブ・コンクリート

## 2. 講演会, 講習会, シンポジウム等

### (1) コンクリート技術講習会

2023年度コンクリート技術講習会を10月～11月にかけてオンライン(オンデマンド形式)で実施する。

### (2) 研究委員会

研究委員会所管のシンポジウムを次のとおり開催する。

- 1) 「微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張反応の評価および予測」に関するシンポジウム

日 時：9月22日(金) 時間未定

場 所：対面(東京都内)+オンライン(ライブ形式)

### (3) 普及委員会

普及委員会所管の講習会, セミナーを次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針2022」講習会

日 時：未定(札幌会場)

場 所：未定

日 時：未定(仙台会場)

場 所：未定

日 時：未定(福岡会場)

場 所：未定

- 2) 「マスコンクリートソフト普及委員会」JCMAC 3 初級者セミナー

日 時：未定

場 所：未定

- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト(LECCAシリーズ)講習会

日 時：未定

場 所：未定

### (4) 支 部

支部主催の講演会, 講習会, 報告会, 見学会を次のとおり開催する。(確定している項目のみ記載)

- 1) (北海道支部)「コンクリートの日 in HOKKAIDO」見学会

日 時：9月5日(火), 6日(水)

場 所：函館市

- 2) (北海道支部)「コンクリートの日 in HOKKAIDO」出前講座

日 時：9月頃

場 所：未定

- 3) (北海道支部)支部設立30周年記念式典

日 時：9月28日(木)

場 所：札幌ガーデンパレス

- 4) (東北支部)「コンクリートの施工の良否が材料劣化に及ぼす影響に関する調査研究委員会」報告会

日 時：未定

場 所：未定

- 5) (東北支部)第18回コンクリート診断技術研鑽のための勉強会

日 時：未定

場 所：未定

- 6) (関東支部)支部総会特別講演会

日 時：5月30日(火)

場 所：未定

演 題：未定

講 師：未定

- 7) (中部支部)支部活動報告会特別講演会

日 時：5月30日(火)

場 所：未定

演 題：未定

講 師：未定

- 8) (中部支部)支部総会特別講演会

日 時：令和6年1月

場 所：未定

演 題：未定

講 師：未定

- 9) (中部支部)中部支部30周年記念講演会

日 時：未定

場 所：未定

演 題：未定

講 師：未定

- 10) (近畿支部)支部総会特別講演会

日 時：5月19日(金)

場 所：エル・おおさか(ハイブリッド形式)

演 題：未定

講 師：未定

- 11) (中国支部)支部総会特別講演会

日 時：5月19日(金)

場 所：未定

演 題：未定

講 師：未定

- 12) (中国支部)学生研究発表会

日 時：11月～12月

場 所：未定

- 13) (中国支部)「わかりやすいコンクリート」講習会

日 時：12月

場 所：岡山県

- 14) (中国支部)「中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会」報告会

日 時：令和6年3月

場 所：未定

- 15) (四国支部)「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告会

日 時：5月16日(火)

場 所：リーガホテルゼスト高松

演 題：コンクリート甲子園への挑戦・防災かまど製作について

講 師：松川将大氏(徳島県立つるぎ高等学校)

- 16) (四国支部)支部総会特別講演会

日 時：5月16日(火)

場 所：リーガホテルゼスト高松

演 題：茅葺・茅採取ワークショップの実践：四国南西部の茶堂と四国カルスト

講 師：釜床美也子氏(香川大学)

- 17) (四国支部)生コンセミナー in 徳島

日 時：未定

場 所：未定

- 18) (四国支部) コンクリート技術研修会  
日 時：未定  
場 所：未定
- 19) (四国支部) コンクリートに関する技術情報交換会  
日 時：上期1回, 下期1回  
場 所：オンライン (ライブ形式)
- 20) (四国支部) 見学会  
日 時：9月25日 (月)  
場 所：松山自動車道4車線化
- 21) (九州支部) 支部活動報告会特別講演会  
日 時：4月21日 (金)  
場 所：リファレンス駅東  
演 題：コンクリートの環境対応技術の開発  
講 師：小島正朗氏 (竹中工務店技術研究所)
- 22) (九州支部) 九州支部第5回学生シンポジウム  
日 時：未定  
場 所：未定

### 〔公3 表彰事業〕

#### 1. 学会賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

##### (1) 論文賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞 (論文賞)」を贈り表彰する。

##### (2) 技術賞

本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同 (技術賞)」を贈り表彰する。

##### (3) 作品賞

コンクリート構造物の美的価値、創造性および環境との調和において技術面も含めて優れている造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同 (作品賞)」を贈り表彰する。

##### (4) 奨励賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同 (奨励賞)」を贈り表彰する。

##### (5) 功労賞

本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同 (功労賞)」を贈り表彰する。

#### 2. 支部表彰

以下の5つの支部において支部表彰を行う。

##### (1) 北海道支部

支部功績賞、支部優秀学生賞の対象者を募集し、支部のコンクリート工学の発展に著しい貢献をした者および優れた研究成果をあげた学生に対してそれぞれ表彰する。

##### (2) 東北支部

論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。

##### (3) 近畿支部

支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の40歳未満の著者に対して表彰する。

##### (4) 中国支部

コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター認定者」とする。

##### (5) 九州支部

九州・沖縄地区の大学、大学院、高等専門学校において、コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生、修了生に支部長賞を与える。

## II 収益事業

### 〔収1 資格付与事業〕

#### 1. コンクリート技士・コンクリート主任技士資格制度事業

##### (1) コンクリート技士・主任技士試験

コンクリート技士・主任技士試験を11月26日 (日)、全国9都市において実施する。

##### (2) コンクリート技士・主任技士研修

コンクリート技士制度に基づくコンクリート技士・主任技士研修を、登録有効期間 (4年間) 満了となるコンクリート技士・主任技士登録者および未登録者を対象として、eラーニングにて、8月22日 (火) から9月29日 (金) まで実施する。

##### (3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士・主任技士研修を受講し、登録有効期間 (4年間) 満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート技士・主任技士試験合格者の申請により登録を行う。

#### 2. コンクリート診断士資格制度事業

##### (1) コンクリート診断士講習

コンクリート診断士講習をeラーニングにて、4月7日 (金) から5月19日 (金) まで実施する。

##### (2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月23日 (日)、全国9都市において実施する。

##### (3) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づくコンクリート診断士研修を、登録有効期間 (4年間) 満了となるコンクリート診断士登録者および未登録者を対象として、10月にeラーニングにて実施する。

##### (4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士研修を受講し、登録有効期間 (4年間) 満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート診断士試験合格者の申請により登録を行う。

#### 3. 資格・講習委員会

各資格関係委員会での検討内容を審議、承認を行う。また、コンクリート技士・主任技士およびコンクリート診断士の合格者の内定を行い、理事会に付議する。その他、必要に応じて資格審査会の開催ならびに国土交通省技術者資格の登録・更新を行う。



【収 2 その他の収益事業】

令和5年度 収支予算書（正味財産増減計算予算）

（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

（単位：千円）

1. コンクリートテクノプラザ 2023

コンクリート工学年次大会 2023（九州）と併行して、コンクリート関連企業および団体による、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

Ⅲ そ の 他

1. 名誉会員の称号授与

本学会の目的達成に多大な貢献をした会員に、名誉会員の称号を贈る。

2. 終身会員およびフェロー会員の称号授与

コンクリート工学の見識に優れ、本学会の活動を長年にわたり支援した会員に終身会員の称号を、また、コンクリート工学の見識に優れ、責任ある立場で長年にわたり指導的役割を果たし社会に貢献した会員にフェロー会員の称号を贈る。

3. 定款・規則改定

定款の改定、学会規則の改定に関して審議し、理事会に付議する。

4. 選挙管理委員会

代議員選挙に関する検討を行う。

勘 定 科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	合 計
一般正味財産の部				
I. 経 常 増 減 の 部				
1. 経 常 収 益				
(1) 基本財産運用益				
基本財産受取利息	5			5
特定資産受取利息		2	3	5
基本財産運用益計	5	2	3	10
(2) 受 取 会 費				
受 取 入 会 金	215		215	430
受 取 会 費	47 663		47 663	95 326
受取会費計	47 878		47 878	95 756
(3) 事 業 収 益				
受託研究事業収益	16 000			16 000
出版事業収益	34 665			34 665
会誌発行事業収益	4 250			4 250
広報事業収益	22 400			22 400
年次大会事業収益	21 740			21 740
講演会等事業収益	13 720			13 720
国際会議事業収益				
技士・主任技士事業収益		396 686		396 686
診断士事業収益		184 059		184 059
テクノプラザ他事業収益		29 425		29 425
一般寄付金収入				
受取寄付金振替額	770			770
事業収益計	113 545	610 170		723 715
(4) そ の 他 収 益				
受 取 利 息			5	5
受 入 送 料				
印 税 収 益	2 150			2 150
雑 収 益	600		829	1 429
その他収益計	2 750		834	3 584
経常収益計	164 178	610 172	48 715	823 065
2. 経 常 費 用				
(1) 事 業 費				
調査研究事業費	69 639			69 639
標準化事業費	13 515			13 515
国際化事業費	11 565			11 565
受託研究事業費	13 266			13 266
出版事業費	41 333			41 333
会誌発行事業費	97 993			97 993
広報事業費	44 647			44 647
助成金事業費	14 320			14 320
年次大会事業費	62 898			62 898
講演会等事業費	35 070			35 070
国際会議事業費				
表彰事業費	11 113			11 113
技士・主任技士事業費		201 695		201 695
診断士事業費		155 944		155 944
テクノプラザ他事業費		13 304		13 304
事業費計	415 359	370 943		786 302
(2) 管 理 費				
人 件 費			12 673	12 673
会 議 費			11 854	11 854
事 務 費			12 236	12 236
管理費計			36 763	36 763
経常費用計	415 359	370 943	36 763	823 065
当期経常増減額	▲251 181	239 229	11 952	0
II. 経 常 外 増 減 の 部				
1. 経 常 外 収 益				
経常外収益計				
2. 経 常 外 費 用				
固定資産除却損				
経常外費用計				
当期経常外増減額				
他会計振替額	200 000	▲200 000		
当期一般正味財産増減額	▲51 181	39 229	11 952	0
指定正味財産の部				
受 取 寄 付 金				
受取寄付金指定				
一般正味財産への振替額	770			770
当期指定正味財産増減額	▲770			▲770
公益目的事業比率 50.5%（公益目的事業会計経常費用計／経常費用合計）				